

第5回 奈井江町まちづくり町民委員会 議事録（要旨）

【日 時】 平成 24 年 11 月 13 日（火） 午後 6 時 00 分～午後 8 時 05 分

【場 所】 役場（大会議室）

【出席者】 委員～12 名（欠席 3 名） 町～13 名

委員	太田裕治	○	中村尚子	○	東藤 勲	○	山中敦子	○	山口俊哉	○
	萬 由美子	○	千徳信行	○	三原 新	○	山 節子	○	石川トヨ子	○
	佐々木修	×	梅澤由香	×	堀 真希	×	加藤智恵美	○	米内公大	○
町	北町長、三本副町長、碓井ふるさと振興課長、鈴木教育次長、岩口おもいやり課長、大津まちなみ課長、加藤主幹、事務局：相澤課長、松本係長、遠藤主事、星野主事、都築主事、高橋主事									

1. 開会 相澤課長

本日はお集まりいただきありがとうございます。教育委員長が萬孝志さんから山中敦子さんに教育委員長に変更いたしました。後ほど委嘱状を交付いたします。

まずは委員長の挨拶からよろしくをお願いします。

2. 委嘱状交付（町長から山中敦子氏へ）

3. 委員長あいさつ（太田委員長）

11 月になってすっかり暗くなりました。今回の議題はハードの面で地域活性化ホールと地域公共交通という奈井江町の独自性のある政策について今一度みなさんの貴重な意見を賜りたいと思っておりますので、時間の許す限りよろしくお願ひしたいと思ひます。

4. 町政運営等に関する主な動向について（町長）

皆さん、大変ご苦勞さまです。すっかり暗くなりまして、お仕事お疲れの中、ありがとうございます。

町政運営について申し上げます。1 点目は皆さん方にご参加いただきました、町政懇談会で町政に対する意見交換を 2 年に 1 度実施しているのですが、今年は 8 月 17 日から 9 月 13 日まで、町内 11 ヶ所に渡り開催したところです。日頃の皆さん方が考えているご意見、ご要望を直接聞かせていただいた貴重な機会が多くの方々からたくさんのご意見をいただきました。

次に米の作況状況ですが、今年も春先に雪が多く、大変雪解けが遅かったのですが、幸い、その後順調で夏はむしろ暑いくらいで、9 月頃まで夏は続いたということもあり昨年引き続いて豊作でしたが、若干蛋白の質が落ちましたが、しかしおいしい米であることは間違いありません。3 年連続北海道一ということで蛋白が少ないということだったので、町としても、いもち病を防ぐために予算措置をしまして、奈井江町の特産物として取り組んできた一つです。またライスターミナルにつきましては、全量の受入れが終わり、現在調整が行われていますが、出荷もされているとお聞きしていますが消費者の皆様からも例年にも増して高い評価を得て、奈井江産ブランドの確立が図ら

れることを期待しているところです。

次に中空知5市5町による戸籍の電算化についてですが、10月9日に調印式を行いました。戸籍作成までの日数や戸籍証明書発行時間の短縮など、住民サービスの向上や、災害時のバックアップの観点から、全国では既85%の自治体が電算システムを導入していますが、財源確保が課題となり、なかなか手をつけられずにいたところです。しかしながら、10市町により共同運用することで導入経費が安くなることから、今回各市町合意のもと導入することに決まりました。今後、システムの導入や必要機器の整備を進めて来年の秋ごろの共用開始を予定しています。

次に地域活性化ホールについて、町政懇談会やこの委員会を含めて審議をいただき、皆さんからの意見を少しでも入れて、来年の8月までの完成予定になっています。運営については多くの方にご利用をいただくよう、JAや商工会、社会福祉協議会と十分協議をしながら、検討したいと考えていますので、皆さん方から利用に当たってのアイデアなどについて忌憚のないご意見をいただければと思います。

また地域公共交通について先般アンケート結果を踏まえ、新たな公共交通の計画策定を行い、来年4月から5月には試験運行を行い、その結果で計画の見直しを行い10月から本格運行を行う予定をしています。計画策定にあたっては、町民の足の確保はもとより買物難民や高齢者の不安解消と合わせ、町の中心に人が集い、町の活性化に繋がるように、多くの町民に利用される公共交通として十分検討したいと考えていますので、皆さん方のご意見等をいただければと思います。

最後に江南小学校の跡地の利用ということで、江南小学校の児童と子ども議会ということで集まっていたいただき、色々と意見を交わすことが出来ました。児童達から「イベント会場として利用しては」、「子供から高齢者まで交流できる“ふれあい館”として利用しては」など様々なアイデアをいただきました。利用については多くのご意見を参考に決定していきたいと考えています。今後も奈井江小学校や中学校、商業高校においても町長と語る会で、子供達の視点での意見を聞きながら町民委員会でも充分協議しながら方向性を決めていきたいと思っています。また地域の代表やPTAの方にもご参加をいただき、拡大町民委員会という形でみなさんと論議し、方向性を決めていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

5. 議 題

(1) (仮称) 地域活性化ホールの実施設計について【説明資料1】(碓井課長)

(委員長) 全員からご意見と感想をいただければと思います。

(委員) 調理室では現状の図面でいくと、色々なことが出来るのかなと思いました。あとは農協との出入りでは交通とか危なくなると出来ようになれば交流エリアにお年よりも若い人も一緒に話もしたり、安らげるところになるのかなと期待しています。

(委員) 活性化エリアの部分で、これだけのエリアが葬儀だけにしか使えないということになると何かもったいない。葬儀を優先しなければならないから、その辺の調整をどうつけていけばいいのかというのが一番問題だと思っ

ています。これだけの施設を活かさなければいけないし、これだけの席数があるところはそんなになので、葬儀のたびに、予定をしていた行事をキャンセルするというのに難しさがあると感じています。

運営については今町内どの施設もそうですけど、業者に運営を任せるといような形になってくるのかなと思いますし、それが一番いいのではないかなと感じています。

(委員) 結構広いスペースなので、きれいに使うために掃除とか事務室にいる方の管理も目が行き届くのか。きれいに活用してもらえればいいのかと思います。あとガラス張りでのことですが、ガラス張りでガラスがきれいすぎてガラスがあるのかないのかわからなくて、ガラスにぶつかる人がいないかなと思ったりします。ここにはガラスがあるという線が一本入っていると何かあれば。みんなが本当に交流エリアで交流できればいいなと思います。

(委員) 移動式の間仕切りも非常に工夫されているし、席数が増える。右下に2ページと出ているところで今の位置の駐車場と一体の利用設備でそれは今の道路を渡るようになってきていると思いますのでこの安全性で横断歩道を付けるなり、工夫がいるのかなと感じました。

(委員) 立派な施設だと思います。ここは全部禁煙なのですか。

(碓井課長) 公共施設といいますか、室内の施設は全部禁煙になると思います。今考えているのは風除室3の北側の玄関の雁木空間もあります。お葬式でお泊まりになる方もいるので、そのようなスペースも確保しなければならぬと考えています。

(委員) 文化ホールは禁煙ですが、結局玄関の外でタムロしてタバコ吸ってます。あれは外から見たら、みっともないので喫煙ルームなどを見えないところに造ったらどうでしょうか。

(委員) 私たち60歳を過ぎていますが、70歳80歳を過ぎても、結構元気な方がいらっしゃる。それで介護、介護という話をどこの会議でも言っているのですが、介護されたり、されなくても行って元気で楽しみたいという方がたくさんいます。公共のそのような場所がほしいという話も聞くので、そのような場所をつくっていただき、待ち合わせとか色々なことに私は使わせていただきたいと思いますので楽しみにしています。大勢の方に利用してもらえるとうれしいと思います。

(委員) 意見は特にありません。感想として、今回大きな計画を作るにあたって途中過程を見せてもらい、本当にたくさんの意見を聞かれてそれを取りこむのは大変だったと思うのですが、図面を見させてもらっていいものが出来

るのかなと楽しみな気持ちです。

質問なのですが、商工会青年部で花火大会の仕事をしていまして、来年のことを考えた時に来年の花火大会の時に8月にこの建物が完成します。産業まつりはここでやるのか、という話になりましてそしたらまた色々考えなくてはならない。その辺りは決まっていることがあれば教えてほしいと思います。

(委員) すばらしい施設が出来るということはうれしいことです。私達みたいに高齢者になって足腰がちょっと弱くなると、周りの車寄とか夏はいいのですが、冬に足元が滑らないか。除雪とか、あまりきれいにされると足元が滑るとか、色々なことが考えられると思います。

(委員) これを見てすごくイメージがわいてきたのですが、一つ思ったのは奈井江商店街とか駅周辺で文化ホールが出来たのもあって、少し明るい感じができたのですが、まだまだちょっと暗いイメージがあるので、例えば特急で奈井江を過ぎても電車の窓から奈井江の町を見た時に明るいなと感じてもらえるようになればいいなと思います。

(委員) ガラス張りなので、冷暖房効果とかは断熱とかは大丈夫なのですか。ガラスが多いと夏は暑かったり、冬は寒かったりするんで、そのような不安と活性化エリアの方の高さが結構天井が高いですよ。そして間仕切りになっているけど天井まで間仕切りですか。あと、模型みたいなものがあれば、もっとイメージが湧いたのかなと思います。

(委員) 交流エリアはいつも開放しているのですか。事務室にはいつも誰かが常駐しているのですか。これだけのスペースを冬は暖房し、夏は冷房をするのか。広報に載っていたイメージ図を見た時にすごく広くて、窓があっというなと思ったのと同時に維持費とか大丈夫なのかなと心配はよぎりました。それとこの共用エリア青い部分の中のトイレも通りすがりに利用してもいいのですよね。ゴミとか、中学生など集まったり、話をしたりという時に使うと思うし、小さなお子さんを連れた若いお母さん達が集まっておしゃべりするならば、清潔な所だったらいいと思います。

(碓井課長) 交通安全対策については、ある程度歩行者の歩く空間や車両の動き方を外溝工事の中で、できる限り明確にしながら、対応したいと思っているのですが、農協店舗の建替計画があり、まだ明確にいつとは決まってないのですが、近い将来というような方でお話を伺っております。固定的にお金をかけると2重投資になるので、そこは農協と協議しながらどのように当面の安全対策をしながら、農協の計画が固まれば、次はそこの繋がりを持ちながら安全対策を検討したいと考えています。

葬儀の関係で、当初に葬儀で使う場合にどうするかという時、そこは優先をせざるを得ないだろうということを決めて、色々な話し合いをしてき

た経過があります。思考錯誤するとは思いますが、よりその性格を生かして、有意義に活動をしていただけるようにということで考えています。活性化エリアではダンスが出来たらと要望があり、北側の器具庫の壁に姿見を6mほど設置しています。通常の色々な団体での活動は、今までと同じく公民館等を利用いただき、空いている時に集まって利用する方法など、これから運営の会議の中で図りたいと思っています。

事務室の配置も色々検討をし、なるべくこの交流エリアを広く見渡せるという意味で、このようにオープンカウンターにしました。これから人員の配置なども協議し、安全で安心して使えるように、検討が必要だろうと思います。

ぜひ利用したい、ということで大変うれしいご意見をいただきありがとうございますと思っています。ただ開放して待っているといってもどうだろうということで、施設の有効利用としてある程度仕掛けをしてそこにいけば今日は何かをやっている、今月は何かをやっているだとか、そのようなことを商工会、農協、社会福祉協議会を含めて考えたいと思います。また、町長の政策的な考え方で北翔大学の生徒さんに来ていただき、町民の皆さんと交流をしてもらうなどの仕掛けを考えてみようということで今これから議論を始めることになっています。

構造的な問題で冷暖房等を含めてですが、交流サロンは天井の高さが6.5m、活性化エリアは外から見ると同じなのですが中が空洞になるような形で3.6m。皆さん鷺尾さんのほうに行かれたことがあると思いますが、あそこよりも少し高いぐらいの天井でアンケートなどに配慮した考え方は。交流サロンは、冬場は床暖房の機能を設け、どうしても人がたくさん出入りすると温度が下がることもあるので、そのような部分で保護していきたいと考えています。逆に夏は冷房も用いるのですが、少しでも和らげるために、2階部分は電動のロールカーテンという形で日差しのきつい時にはそこが閉まり、1階部分は手動でロールカーテンをつけて対策をとりたいと思います。

交流エリアの高さは開放感を第一に持ち、商工会からのご意見でパブリックビューイングなどのスクリーンとして活用できるということで、調理室とプレイルームの上の辺りに幅10m、縦は3mくらい白い壁があるので、そのようなイベントにも活用できるようにしたいと思います。交流サロンには情報発信ということでテレビのモニターを置き、町や企業、商店街の情報などの発信、そして掲示板を設けて色々な町のイベントのポスターを貼ることも出来ればと思っています。また立ち寄った人が待ち時間にテレビを見れるように大きめのテレビの設置を考えています。

管理はこれから検討をしますが、いきなり全てを管理委託に出すと、なかなか難しい部分があると思っていますし、どのように多くの人に利用してもらうのか、清潔にそして安全に利用していただくという部分も考えています。そのようなことで、全部にお答えできてないかも知れませんが、そのような形でより良い施設にしていきたいと思っています。ある程度管理運営等が固まりましたら、適当な時期に皆さんにもまたご意見をいただくこ

ともあるかと思えますのでよろしくお願いします。

(委員) 喫煙場所の話がありましたが、社会福祉協議会の入口の所でも本当は喫煙室があると一番いい。今いらっしゃる中でどの程度の割合でタバコを吸われる方がいるかわかりませんが、私はヘビースモーカーです。どこに行っても肩身の狭い思いをしている。時代だといってしまえばそれまでですけど、ただこれだけ大きな施設だと集まる方の1～2割喫煙者がいると思いき、ゼロにはならないと思えます。

文化ホールの入口も他に囲って吸う所がないからだと思えます。しかし、タバコを吸う方がそこで話をしてそれも結構交流になります。ですからスペースとしてはやっぱり必要で、空調施設に近い所でそのようなところがあれば、いいのかなと思えますし、ほっとする空間も必要かなと思えます。

(碓井課長) 建物構造的な問題もありますが、ちょっと雁木スペースという位置づけも検討しているのですが、それが寒さ対策だとかが出来るか建築に向けて工事の中でまた検討させていただきます。

(委員長) 冬場足を滑らせないということは少し検討をしていただいた方がよろしいのかなと委員長としてもお願いしたい。あと施設の名称について、札幌市はキタラとかつどーむのように町民が愛着を持つような名前になればと個人的に思うのですが、町民が関心を持って応募してもらおうような仕掛けをやっていただきたいとの思いです。

(相澤課長) 地域公共交通のアンケートを行い、それをまとめて奈井江町としてこのような方法で運行したらという基本的なプランをまとめたのが皆さんに配布している冊子です。今回のプランニングにあたっては、コンサルタント会社のプランニングワークショップに委託して取りまとめたという経過がありますので、まずはこちらのアンケート結果で、どのような検討をしていったらいいのかということの説明させていただいた後に皆さんに意見交換をさせていただこうと思っておりますのでよろしくお願いします。

(2) 地域公共交通について【説明資料2】(プランニングワークショップ・榊原氏)

奈井江町の公共交通の考え方と方向性について(まちづくり課・遠藤主査)

奈井江町の公共交通の方向性と今後の進め方について説明いたします。

現況調査2で奈井江町の現状として、行政区ごとの人口分布が図面で示されておりますが、注目すべきところは、北町、本町、東町、南町の市街地区に人口のおよそ8割が居住しており、他の地域では面積も広いため、人口密度も低い状況となっていることから、市街、郊外それぞれの区域に見合った運行体系を検討する必要があると考えます。

次に、現況調査3の高齢者人口及び高齢化率の図をご覧ください。高齢化率を見ますと、宮村、巖島、向ヶ丘では50%、大和、白山、住友新町では40%を超えており、郊外地域の高齢化率が高い状況が伺えます。また、町営バス利用者のアンケートでは、4

割の方が停留所までの歩行が「つらい」との結果でありましたことから、高齢者に配慮した運行ルート等の検討が必要であることが考えられます。

実態調査 11 アンケート調査でのバスの利用状況について「現在バスを利用している方」「バスを利用したいがバス路線等がない方」「5年以内にバスを利用したい方」を含めると、およそ4割の方が「利用したい」との回答をしております。

市街と郊外の回答者数の差もありますが、グラフで見ると市街地区で近い将来、バスを利用したい方が郊外に比べ、多くいることがわかります。

実態調査 12 で「バスを利用している」または、「利用したい」と回答した方に、どのバス路線を利用するかとの問いに対し、中央バスの「滝川美唄線」、「滝川奈井江線」を利用するとの回答がおおよそ7割と高いことから、中央バス路線への乗り継ぎに配慮した運行体系が必要と考えられます。

また、町営バスについては、東町、向ヶ丘地区において、現在運行していることもあり「利用する」との回答が高いことから、温泉までのルート確保も必要と考えられます。

実態調査 14 では「現在バスを利用している方」または「利用しやすいバスがあれば利用する方への利用先はどこか」との質問ですが、①から⑤までの町内、そして⑥以降の町外ともに、病院と商店、店舗への利用との回答がほとんどであり、通院や買い物といった生活スタイルに沿ったかたちでの運行時間の検討が必要であると考えられます。

実態調査 18 は新たな運行サービスで取り組んでほしい公共交通の施策に対する質問ですが、回答の多いもので、JRや中央バスとの乗り継ぎや町内店舗や病院等の民間協力によるバス運行、また、乗合タクシーといった予約によるデマンド交通、巡回バスの運行との回答がありました。民間協力の運行との回答が多い背景には、通院や買い物に対して利便性の高い運行が望まれているものと推測され、デマンドでの運行では、郊外地域での要望が多く、自宅の前から目的地までの運行が望まれているものと思います。

検討5の図は調査結果による分析及び検証により、この新しい公共交通体系プランを提案させていただきますが、人口の多い市街地区では、気軽に乗り降りができる巡回バスを運行し、高齢者率の高い郊外の地域では、電話での事前予約により、自宅の前または、すぐ近くに設置した停留所から、地域活性化ホールまでを結ぶデマンドバスを運行することで、高齢者にやさしい効率の良い運行を行いたいと思います。

また、現在の駅前から温泉までを結ぶ向ヶ丘線のルートは、そのまま残しながら、出発点を地域活性化ホールに変更することで、現在の町営バスを利用している方や、温泉までの利用者に配慮し、また、デマンドバスと同様に電話による予約制の運行と郊外での沿線の住民はデマンドバスも利用できることから、運行回数を減らすことで効率性の良い運行を行いたいと思います。

スクールバスにつきましては、児童生徒の送迎や学校行事等を優先にしながら、登下校での運行に、一般の利用が可能な混乗による運行を実施したいと思います。

福祉バスにつきましては、利用者数が少ない状況であり、停留所までの歩行がつらいとの意見から、利便性の向上と効率性の視点からデマンドバスでの運行に変更するといった検討を老人クラブ等との意見を交わしながら検討を進めて参ります。

そして、スクールバスを除く、すべての運行体系の出発地点を地域活性化ホールとし、公共交通のステーション的な機能を持たせるとして、人の流れを集約し、地域活性化ホールの目的である「子供からお年寄りまで、気軽に立ち寄ることができる交流の拠点」につなげていきたいと考えております。

以上が新しい公共交通プランの素案ということで、昨日、地域公共交通会議において承認をいただきましたが、まちづくり町民委員会の皆様をはじめ、高齢者支援ネットワーク懇話会や、老人クラブ、福祉施設の方々にもご意見をいただきながら、来年の1月には、運行便数や運行時刻、デマンド運行の方法等、より具体的なものをお示したいと思っていますので、ご意見くださいますようよろしくお願いいたします。

(相澤課長) 奈井江町の高齢化率が高くなるに伴い、高齢者支援ネットワーク懇話会ということで、町内の有識者が集まっていただき、高齢者の困りごとを解消していこうという話し合いの中で、今はまだいいが、もう少ししたら免許を手放さなければならない時に、足がないと困るという意見が出た中で、奈井江町の足の確保を検討しようということで議論が始まりました。

地域公共交通会議は向ヶ丘線があったので、あったのですが、今年は全町的に高齢者や障害者の足の確保をしようということで、委員の数を増やし、25名の方に参加をいただき議論をはじめました。その公共交通の委員の中で、国の機関である北海道運輸局や北海道の機関やバス会社やタクシー会社などにも入り、町の代表として向ヶ丘連合区長や老人クラブ連合会の方や町民委員会からは委員長にも入っていただき、他の団体の代表で山委員にも入っていただいています。

昨日、この公共交通会議を開き、エリアやダイヤをどうするかを決めていきます。対象となるであろう高齢者や障害者の方からアンケートを取り、それをまとめてもらい、奈井江町ではこのように走らせたらいいのではというような提案をいただき、その後奈井江町からこの提案を受けてこのようなことを考えているというようなことを追加で説明をし、昨日の会議にかけて、基本的にはいいということで承諾をいただいています。アンケート調査の結果が全てなのですが、町長の方針として、色々なチャンネルで生の声を聞きたいということで、加えて町民委員会の皆さんからも意見をいただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(委員長) 町としては真剣に足の確保として町に溶け込んだ交通機関をつくろうという熱意は感じています。町民の代表として私どもも提案できればと思っていますので、代表して何名かの委員さんにいただければと思います。

(委員) 温泉バスは予約制ということですが、簡単にできるのでしょうか。お年寄りには予約するのが大変だと思います。予約が面倒くさいからいいや、ということになるのではと思います。町の色々な地域にバスが通るのは足の確保ができていいことだと思います。あとは向ヶ丘線でいけば本数が少なくなってしまうのですが、予約が簡単にできて家の近くまできてくれるのは皆さん喜ぶのではないかと思います。

(委員) スーパーの店舗前には結構タクシーを呼んで止まっています。農村であれば停留所まで距離がありますし、バスの車種にしても、ワゴンタイプの9人乗りで、何度も回ってもらうと農村地区ではいいのかなと思います。

ルートが決まり、どこか予約センターのように、そのようなシステムを構築してくれば、農村地区は高齢化が進んでいますので、便利に使うこともでき、資料にありましたある程度の年齢で車を手放す人たちの要望も満たされるのではと思います。

(委員) 自分の家は、2階の部屋から福祉バスを見つけてから家を出ても間に合うようなところに住んでおり、バスを利用し温泉まで行かせてもらっています。停留所が離れていて、そこまで歩くのがつらいという方もいる。そのような意味でお年寄りに配慮していただければ助かります。

(相澤課長) 基本的に市街地区は定期運行で、農村地区はデマンド運行がいいのではということが決まっています。そこから先はこれからの計画となっていますが、今3名の委員さんからご意見をいただきましたので、今後の計画づくりの参考とさせていただきます。

(3) その他

(委員) 自分は南町に住んでいますが、江南小学校の跡はどのようにしていくのでしょうか。決まっている段階での話でもいいので、教えていただきたい。

(町長) 冒頭もお話しましたように、町民委員会の拡大委員会を予定して、地域の方も入っていただきその場で論議したいと思っています。

(相澤課長) 期間が短いのですが、次回の委員会は12月10日前後を予定しており、議題は江南小学校の跡地利用についてです。地域の方も入っていただき、町民委員会委員の皆さんの他に拡大ということで、南町・茶志内・高島連合区から区長さんにご推薦をいただいた方と、江南小学校のPTAからも推薦をいただき、19名で議論をしたいと思っています。今、事務局で考えているのは19名全員ではなく、半分に分かれてグループ分けをして議論をしていきたいと考えています。加えてその時にバスのご意見もいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

(委員長) 12月の師走ということで忙しい時期ですが、江南小学校の跡地利用ということで、町民の皆さんの関心事だと思います。私たちの考えも含めて進めていきたいと思っていますので、参加くださいますようお願いいたします。本日は長時間に渡りありがとうございました。